

令和 7 年 11 月 10 日

『 敷地内グループ減算巡り、森氏発言を釈明 日薬・岩月会長、「直ちには言っていない」

日本薬剤師会の岩月進会長は 5 日の会見で、日薬の森昌平副会長が先月の中医協総会で敷地内薬局の「グループ減算」に言及したことについて、「（敷地内の増加が）続くのであれば、（グループ減算も）考えなければいけないと発言をただけで、けしからんから直ちに点数を減らすべきとは言っていない」と釈明した。・・・』

2025/11/5 19:06 じほう社 Pharmacy Newsbreak

「対立ではなく、理念の確認として」

敷地内薬局の問題は、単に経営構造の話ではなく、医薬分業の理念そのものに関わるものです。

私たち薬剤師会は、経営効率を否定しているわけではありません。むしろ、企業が創意工夫で効率化を進め、地域医療に貢献していくことは重要なことだと考えています。

ただし、その中で私たちが守らなければならないものがあります。それは、患者がどの薬局でも公平に、安心して薬を受け取れる環境です。医療機関の経営や意向から距離を保ち、薬剤師が“第三の専門職”として独立した判断を行える—その中立性こそが、国民にとっての信頼の根幹です。

今回の日薬の発言は、特定の経営体や業界を批判するものではなく、あくまで医療全体のバランスをどう保つかという観点からの問題提起です。「均衡そのものが善」という言葉の通り、極端な方向に偏らないことが、最も健全な制度を育てると私たちは考えます。

今後は、「敷地内・敷地外」という二項対立の構図を超えて、地域包括的に医療資源を共有し、互いの役割を尊重しながら協働する新しいモデルをともに築いていきたい。患者のための医療の未来に、線を引くのではなく、橋を架ける立場でありたい—それが私たち薬剤師会の変わらぬ姿勢です。